

## 福島県立小高工業高等学校

「被災地学校修学旅行支援事業」をうけて

福島県立小高工業高等学校

第2学年主任 小柳津 教夫

去る11月17日(日)～21日(木)にかけて、福島県立小高工業高等学校、平成25年度の修学旅行が実施されました。一昨年度、昨年度に引き続き愛媛県よりご支援をいただき、松山工業高等学校との交流会や松山市内観光を含め、4泊5日の非常に中身の濃い修学旅行となりました。

20日(水)朝、3日目までの旅程を終えた小高工業高校2年生111名は、京都駅から新幹線に乗り込み、一路愛媛県へ向かいました。この日、この旅行のメインイベントといっても過言ではないでしょう、松山工業高校との交流会が行われました。例年大きな盛り上がりを見せたと聞いていたこともあり、大きな期待と少しの不安を胸に、修学旅行団は松山工業高校に到着しました。到着してさっそく、生徒の多さと熱烈な歓迎ムードに圧倒されましたが、それぞれの科の趣向を凝らした催し物に、最初は緊張していた小高工業生たちも、次第に楽しそうな笑顔を見せるようになりました。最後、両校生が力を合わせてボールをゴールに運ぶゲームをすることには、お互いにすっかり打ち解け、あちこちで和やかに談笑する姿も見られました。私たちを楽しませようという空気に満ち満ちた中、予定時間を大幅に超えて交流会は終了しました。

さらに夕飯時、中村時広愛媛県知事がわざわざ宿舎までお見えになり、歓迎セレモニーを催してくださいました。温かい歓迎のご挨拶とたくさんのお土産をいただき、旅行団全員が非常に感激しました。うわさに聞いていた「ポンジュースの出る蛇口」まで用意され、生徒たちは列を作り、二度三度とおかわりをしていました。

翌21日(木)は正岡子規堂と松山城を見学してから帰路につきました。道後温泉本館は時間の都合上、バスの中から眺めることしかできませんでしたが、それでも「千と千尋の神隠し」のモデルになったといわれる建物を直に見ることができて、生徒たちも興奮していたようです。

今回の旅行は全体を通して思い出深いものばかりでしたが、やはり愛媛県で過ごした2日間は特に素晴らしいものでした。前年までの生徒たちがそうであったように、「一番の思い出は松山工業高校との交流会」という生徒も多く、ぜひまた愛媛県を訪れてみたいという声もたくさん聞きました。これもひとえに、今回ご支援くださった愛媛県の皆様のおかげと、心より感謝しております。本当にありがとうございました。「被災地学校修学旅行支援事業」自体は今回が最後とのお話ですが、これに限らず、福島県と愛媛県との交流をはじめ、様々な交流がずっと続いていくことを期待したいと思います。